

変わる日本の「暮らし」と「まち」

DIYを切り口に団地が変わり、暮らしが変わり、まちが変わる

大阪市大正区 千島団地
「TAISHO☆UPプロジェクト」
(2016年・平成28年)

阿部民子

text by Tamiko Abe

Illustration: ShigeYuki Sakata



時代の流れもあり、団地はいま、大きな転換期を迎えている。

DIY自由の賃貸住宅が誕生

昭和30年代から40年代にかけての高度成長期、団地は庶民の憧れの的だった。ステンレス製の流し台や水洗トイレ、住戸内にある風呂などの最先端設備や、寝室と居間を分けた西洋風のスタイルをいち早く導入。急激な都市部の人口増と戦後の住宅不足解消の救世主としても、団地は大きな存在意義をもっていった。

それから、早60年。多くの人の暮らしを紡いできた団地も再生の時期を迎えた。少子高齢化という

大阪の中心部「なんば」まで、

バス1本。緑豊かな昭和山や大正区役所に隣接した生活至便な場所にある、UR「千島団地」。今年で築45年を迎える、総戸数2236戸の大規模団地だ。じつは、この千島団地、賃貸でありながら新しく募集する全ての住戸でDIYが可能という画期的な試み



「壁紙屋本舗LAB」に来ればDIYに関する相談が何でも出来る

この動きを仕掛けているのが、大正区とUR、「壁紙屋本舗」がタッグを組む「TAISHO☆UPプロジェクト」だ。もともと大正区はまち工場が多い、ものづくりの盛んな地。だが、近年は若者の人口流出に悩んでいた。そこに、高齢化が進む団地で若い人たちが呼び込みたいというURの思いが合致、さらに楽天市場のショップ・オブ・ザ・イヤーも受賞した、大正区に居を構える人気セルフリフォーム専門店「壁紙屋本舗」が参加。ものづくりDIYを軸に、まちを活性化しよう！というプロジェクトが始まったのだ。

住まいを楽しむ文化を発信

「TAISHO☆UPプロジェクト」のアイコン的な役割を担っているのが、団地の一角に店舗を構えるDIY相談サロン「壁紙屋本舗LAB」だ。カフェを併設したスタイリッシュな店内には、壁紙や床材の大判サンプルが自由に見られるようにディスプレイ。一角には工具類完備の工房があり、音や匂いを気にせず思う存分DIYが楽しめる。壁紙の張り方やペン

キの塗り方などをスタッフが手取り足取り教えてくれるワークショップも好評だ。

「もともとうちの会社はウェブで壁紙などを販売していて、路面店こそありましたが、団地に出店するのは初めてです。僕らがここに入ることで団地に住まわれている方の部屋が素敵になって、人に見せたくなくて人を呼んだり、人の家にも行ったり、コミュニティが生まれるきっかけになるといいなという思いがあります」と語るのは、壁紙屋本舗の林耕一郎さんだ。壁紙屋本舗LABに場所を提供しているUR西日本支社大阪エリア経営部企画課長の西山直人が言葉を継ぐ。「日本には、賃貸でも住まいを楽しむ、住みこなすという発想があまりありません。でも、賃貸だからとあきらめて我慢して住むというのはさびしいじゃないですか。もともとDIYには、自分の住む場所を快適な空間にしようという精神があります。74万户と全国において多くの賃貸住宅を管理する我々URこそが、DIYで自分たちの家を快適にするという文化を発信して、団地って意外

と自由度があつて楽しい、と発見してもらいたい。そして地域の方にももちろん遠方の方も、大正区やこの場所に目を向けていただき、住まいを楽しむ文化を広げていきたいと思っています。

URは団地内に人気インスタグラマーなどによるDIYモデルルームを公開。また、DIY賃貸には家賃が3カ月分無料になる特典付。そのお金でDIYの費用を捻出し、より気軽にリノベーションを楽しんでもらおう、という狙いだ。

まちを元気にする起爆剤に

関西では、有志の若手職員によるクラブ活動URDIY部が結成され、団地イベントへの参画や支社の会議室のリノベーション、団地内のモデルルームなどを製作。全国のURにもDIY部発足の波が広がっている。

「西山さんの嗅覚はすごい。しかも、土日も出てきてワークショップをやったり、自らも団地の1室にこもってDIYしたり、地道な活動も行っている。URが動くということは日本の住環境が動くということ、これからの住まいの

方向性も示したのでは」と林さんも舌を巻く。

そして、「TAISHO☆UPプロジェクト」のもう1人のプレーヤー、大正区はイベントの区民に向けた告知や橋渡し役として活躍。プロジェクトの立ち上げに行った「大正DIYマーケット」は1日で5000人もの入場者を記録した。さらに最近では、大正区の呼びかけでまち工場とのコラボレーションも進展。大正区のまち工場が作る荷物運搬用の木製パレットをベンチにリメイクして販売する企画もスタートした。

「DIYは、自分で暮らしをクリエイトできる究極のリノベーション。自分の部屋や地元に着着を持つきっかけにもなります。DIYを切り口に、人がつながって、行政やまち工場、地域の人々を巻き込み、まち全体が元気になれば」と西山。1つの団地から始まった波は、大きなうねりを見せ始めている。

街に、ルネッサンス

UR 都市機構

一日も早い東北の復興へ 全力で取り組んでいます

【企画制作】新潮社